

<b>第8回 第3分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 研修室
日 時	平成17年10月4日 午後6時30分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 安達、佐々山、蛇石
		責任者	区事務局（黒澤）
会議出席者：42名 傍聴者5名 （区民委員：32名 学識委員：2名 区職員：4名 コンサル：4名）			
<b>■配布資料</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3分科会（第8回）次第</li> <li>● 文化・歴史を活かしたまちづくりについて</li> <li>● 神楽坂の歴史と文化とまちづくりについて</li> <li>● 第1ステップ（今までの学習会）での課題をふまえた第2ステップでの検討項目について</li> <li>● 第3分科会（第7回）会議録（概要）</li> <li>● 第3分科会（第9回）開催場所について</li> </ul>			
<b>■進行内容</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 文化・歴史を活かしたまちづくりについて</li> <li>3 神楽坂の歴史と文化とまちづくりについて</li> <li>4 第2ステップへ（今後のテーマ検討）</li> <li>5 まち歩きについて</li> </ol>			
<b>■会議内容</b> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員、▲：コンサル ☆：外部講師</p>			
1 開会			
◎：それでは時刻を過ぎましたけれども、第3分科会を始めたいと思います。ではいつも通り資料の確認の方をお願いします。 （配布資料の確認）			
◎：ありがとうございました。では前回のことを若干振り返りたいのですが、前回は「みどりとエコロジー」ということで緑が減るのを抑える方法、それから緑を可能なところに増やす方法、それからどんな緑が良いのかという緑の質についての話。どうやれば緑を守ったり、育んだりできるのかという組織やソフトの話。その4つの柱の中で話が進んだかと思えます。最後グループ発表の中では、いろいろな地域によって緑の質、どんな緑なのかというのが随分違って、事情も違って、あるいは財源の問題も含めて緑の話はしなければいけないのではないかというような話があったかと思えます。今回、とうとう最後の学習会ということになりまして、文化・歴史というテーマでお話を頂きます。最初は新宿区のまちづくり計			

画担当副参事から、文化・歴史を活かしたまちづくりということで10分ほど頂きます。その後、神楽坂まちづくりの会会長の山下さん、今いらっしゃいますけれども、お話し頂きます。新宿区の中で先進的に歴史や文化を活かしたまちづくりを実践的に行われているということで、20分ほどお話を頂きたいというふうに思います。その後、質疑応答等あれば行いまして、いったん休憩にします。それから残りの時間で、とうとう第2ステップですね、提案に向けての話し合いに入っていきたいと思います。最後は次回がまち歩きの発表会ですので、まち歩きの発表会をどういうふうにするかということ、アーバンデザインコンサルタントの方からお話を頂きたいというふうに思っております。それでは早速内容に入ります。よろしくお願いいたします。

2 文化・歴史を活かしたまちづくりについて（都市計画課：まちづくり計画担当）

○ :【文化・歴史を活かしたまちづくりとは】

◆ 新宿の持つ資源を活用して、地域の個性が輝く新宿区をつくる

- ・ 住むことに誇りが持て
- ・ 訪れる人が心地よいまちに

→賑わいと暮らしやすさ是对立するものではない。

◆ 歩きたくなるまち 新宿 ～世界都市から創造都市へ～

- ・ 潤い豊かで魅力的なまちの集合体
- ・ 近代文学・演劇の揺籃の地
- ・ 個性的で新たな文化を育む建築物
- ・ シンジュークは素敵
- ・ 産業のまち 新宿

◆ 魅力的なまちの集合体

- ・ 新宿 追分から新都心
- ・ 歌舞伎町 民の力でつくられたまち（歌舞伎町ルネッサンス）
- ・ 神楽坂 山の手一の繁華街
- ・ 四谷 魅力を隠す坂のまち
- ・ 落合 目白文化村
- ・ 早稲田 日本を代表する大学まち

【新宿区の文化・歴史について】

◆ 漱石が生まれ活躍したまち 文芸協会からテントまで

- ・ 坪内逍遙、島崎藤村、小泉八雲、永井荷風
- ・ 林芙美子
- ・ 島村抱月、松井須磨子
- ・ 寺山修司、唐十郎、佐藤信

◆ まちのランドマーク

- ・歴史的建造物  
伊勢丹、大隈講堂、旧小笠原伯爵邸、日立目白クラブ etc
- ・超高層ビル  
京王プラザホテルから
- ・個性的な建築物  
歌舞伎町1, 2番館、軍艦ビル etc

【そとから見た新宿とは】

◆人をひきつける魅力をもつまち

- ・海外から注目される Shinjuku
- ・新宿はビジターズ産業の集積地  
観光やビジネス等を目的に、一定の限られた期間滞在する人々によって発生する需要に対応した産業  
飲食、買い物、宿泊機能  
高等教育機関  
コンベンション施設

◆新宿は新しい産業のゆりかご

- ・創業の地としての新宿区  
規模の小さいビルが多い  
交通の便が良い  
24時間都市  
アメニティは課題

◆活用されていない新宿の資源

- ・身近すぎ意識されていない文化（発信能力）
- ・文化行政とまちづくりの連携が不十分
- ・担い手が十分に育っていない（役割分担）
- ・水やみどりといった都市環境の活用
- ・都市更新のあり方（単機能から多機能へ）

【これからのまちづくりとは】

◆都市を楽しめるまちへ

- ・観光都市の視点をもったまちづくり
- ・I♥NY、観光コンベンション協会
- ・協働によるまちづくり
- ・NPOとの協働、BID的なまちづくり組織
- ・地区計画、都市計画提案制度
- ・文化と産業の融合
- ・映画、演劇、アニメ、アート

・スポーツ、大学

3 神楽坂の歴史と文化とまちづくり（神楽坂まちづくりの会）

☆ : 【1、神楽坂の歴史と文化】

- ・ 神楽坂の歴史：徳川家康の時代すでに町屋、門前町

1634年、大老が江戸城に向かう道路が整備され神楽坂の通りに

1658年、神田川の水運で物流が盛んに

江戸中期、毘沙門天で栄える

明治27年、甲武鉄道、牛込駅（現在の飯田橋駅付近）開通

大正の関東大震災、被害が少なく→下町から百貨店が移ってくる

昭和12、13年、最も賑わっていた時期

戦後 泣かず飛ばずの状態

バブル崩壊後 まちづくりの機運が高まり活動が始まる

【2、神楽坂のまちづくり「伝統と現代がふれあう粋なまち」】

- ・ まちづくり活動

①まちづくり活動の経緯

新宿区都市整備方針（昭和63年）により、まちづくり推進地区に指定

平成3年、「神楽坂地区まちづくりの会」設立、まちづくり推進計画を区へ提出  
提案後もまちづくり活動を継続していく事に。

②まちづくり憲章

まちづくり憲章とは：これからのまちづくりを進めるための「基本的な考え方、  
理念」⇒人の気持ち（平成6年に新宿区長に報告）

③まちづくり協定

（協定は難しいので）キーワードを表に→それに解説を付けた「まちづくりキ  
ーワード集、粋なまち神楽坂」2500戸に配布

④街なみ環境整備事業

電線の地中化（神楽坂1丁目～5丁目協定）

現在は協定から地区計画への格上げを

昨年11月 まちづくり交流会を設置

【3、地域の課題】

①協定の地区計画化

【4、今後のまちづくり活動】

①観光まちづくり：今ある資源、人を磨き紹介する→まち飛びフェスタ

②路地サミットの実施

- ◎ : ありがとうございます。実際の活動のお話を頂いたのですが、質問等、例えば  
まちづくりの会をやっていく上で問題はないのかなど、これから地元で活動を思  
い描くと質問等あると思いますが、いかがでしょうか。

- : B I Dはどのようなものなのでしょうか？
- : B I Dはビジネス、インフラメント、ディストリクトと言う事で、正直言ってしまうと日本の商店街振興組合とあまり変わらないものと思うのですが、有名なのはニューヨークのタイムズスクエアの事例です。タイムズスクエアは1970年代から治安面で問題が出てきていて、いわゆるポルノショップであるとかそういうものが多くなってしまったので、あまり夜に歩けないという状況になってしまったので、そういうものを改善するためにB I Dという組織ができて、そこに地主の方、商店の方などから会費を徴収して、それをもとにガードマンを雇ったり、街の清掃を行ったり、そういった活動を行ってきました。そうやって街が、今「破れ窓理論」とかが有名ですが、窓が破れているのを放置していると、そこから犯罪が広がっていくと。そういった最初の段階から街をきれいにするとか、ゴミをなくすとかすると、ゴミも捨てなくなってくる。そうすると街がきれいになる。街に人がやってくる。そうすると街が賑わっていく。それがプラスの方向にタイムズスクエアでは回って、ディズニーの劇場もできて、またミュージカルなんかも盛んな非常に観光的にも人が集まるような街になった。そういう組織がB I Dというものです。日本でもそういうB I D的な組織を作れないか、という提案です。よろしいでしょうか？
- ◎ : B I Dについて一つだけ付け加えると、要するに課税権を地域に任せるということです。普通は自治体なり国なりが課税をして集めてしまうわけですが、B I Dはある地区の中で課税権をそこに渡してあげることで税金は自分たちで使う。身近な政府というか、身近なところでお金の使い方が分かるわけですから、清掃に使うのか、デザインガイドラインを作る事に使うとか、高い関心を持つことになってくる。割と面積によって徴収される額が決まってくるわけですが、全員が例え1ドルであっても出すということになるので、その地区としてのまとまりが強くなるという傾向があります。ただ、日本の場合は課税権を動かすというのはやったことがないというか、できないことになっているので、B I D的なものと言っているのはそういう意味での課税権というのはちょっと難しいということだと思います。
- : 具体的にはどのように考えているのでしょうか？
- : これから考えていかないといけないと思っているのですが、商店街なんかでも商店街の会費を取って上手く地域の活性化に取り組みをして、そういう風にできないかなと思っています。ただ、そういった時にいつも問題になるのは、商店街自身がみんなを組織しているわけではない。アウトサイダーのような人、そういった人たちが出てきてしまうとか、そういった事をどうやって解決していくかという問題があると思います。
- : その辺の具体的な例はないのでしょうか。今日の話はまちづくり計画と言いなが

らも第三者的な意見という感じがしました。だからB I D的って面白いなと思ったのですが、課税権が移せないなら、私はこう思うって部分はないのでしょうか。町会費とか商店会費は、大した額を集められないので、何もできないんです。税金の方が高いじゃないですか。その辺でどうでしょうか。

- : なかなか難しい質問なのでちょっと、実際に今、歌舞伎町のルネッサンス協議会で検討されています。そういったものが具体化していくとある程度のもものも出てくると思います。先生、何かありますか。
- ◎ : B I Dを日本に導入しようと思って国は大検討をしたんです。それで今日本ではT M Oというタウン、マネジメント、オーガニゼーションというものを作れるようになったんです。さっき言われたようにB I DとT M Oの最大の違いは徴税権があるかないかというところなんです。しかし、それ以外のメリット、B I Dというのは日本語では中心市街地活性化法という名称は皆さん聞いたことあると思うのですが、中心市街地活性化法に基づいて区市町村が一箇所、そこが少し問題なんです、一箇所指定するとB I Dと指定できる。B I Dに指定するといろんな公共事業、国の事業、都の事業も含めてですが、優先的にそこに採択されるという制度になっているんです。ですから、徴税権はないんだけど他のメリットというのはかなりT M Oに名乗りを上げて、例えば新宿だとT M Oは1箇所じゃなくても何箇所でも良いじゃないかと、例えば区長が定めればいいとするとか、あるいはもう1つ徴税権に触れるならば、参考例として聞いていただけるとありがたいのですが、千葉県の子川市では住民税の1%について市役所に預けないで、自分の好きなN P Oとか市民団体に寄付できるという制度を今年から始めました。画期的な制度だと思います。税金は区、都、国に持って行って議会で決められてしまうわけですが、そうではなくて、自分の住民税の1%を自分の地域のために、あるいはいきまちでも良いです、神楽坂のいきまちなちのN P Oに寄付したいと思ったらそれを払わなくていい、市川市に。そういう制度は市川市で今年初めてできました。そんな制度をやっているところがあるのだから、ここで提案してB I Dとは違うけれども、自分の街に役に立つ、あるいは自分の区の役に立つN P Oなり市民団体にその自分の住民税が回るシステムを作ることは可能だと思います。B I Dは商店街が中心ですが、もうちょっと住宅地の緑を守ろうとか、あるいは福祉・環境を作ろうというところに住民税を回すことができるわけですから、これからは今払っている住民税の使い道をもっと区民の方々が自分の意見が反映できるような仕組みというものも必要なわけですから、是非、次のステップの中で税金の事もご提案していただければ素晴らしいと思います。ちょっとそれてしまいました。
- : この前からまち歩きをしまして多くのところを見ましたが、感じとしては神楽坂が一番よくやられているなど。ただ、先ほど観光ということを言われていました

が、私、10年ほど前にサンフランシスコの地震のことで調査に行ったことがあるのですが、向こうの人が日本に来たときにゴールデン街に行きたいと言うんです。結構、ゴールデン街は我々にとってあまり良いところと受け取っていませんが、向こうの人にはそうではないんです。この前歩いた感じではかなりイタリア料理やフランス料理屋があったり、そういう意味ではそこに階段が通っていたり、ある意味で日本の街とヨーロッパの街がぐちゃぐちゃにくっついたような感じだけれど、面白いなと感じたので、今後も観光バスが止まるようなステーションができたり、私は面白い街になっていくのではないかと。やっぱりよその人も来てくれないと日本人同士だけでは面白くないので、そういう意味では神楽坂は面白い位置を持った地域と思うのですが、今後の考え方、方向性をお知らせ願いたい。

☆ : 私たちが観光とっているのは従来のものとはちょっと違まして、地域のコミュニティを大事にしてコミュニティを楽しみに来てもらうという意味合いが多くあると思います。いわゆる観光バスでどっときて、お土産を買って帰るというものではなくて、少人数で電車に来ていただいて街を2,3人で歩いていただき、そういった中で街の良さも自分たち自身で発見していただくとか、神楽坂自体は粋なまちとかで売り出そうとしていますが、実際は多様性がありましてプチパリ、プチフランスとか結構いろんな事を言われています。とにかく神楽坂は昔からいろんなものを取り入れてどんどん変わっています。代表的なものは料亭とか和の文化が中心になりますが、実際はフランス料理が40件くらいあると思います。他にイタリアンとか、中国料理とか。とにかくいろんなものが雑多に入っています。それが神楽坂の魅力の一つだと思っていますので、そういうところも活かして、そういった街並みを楽しみに来ていただき、さらに人と出会っていただく。今、粋なまちづくりクラブではコンシェルジュといって街案内を積極的に行っていくという事業を考えています。具体的には何回かまち歩きということで案内していますけれども、そういったことを今後事業化していけるかなということで計画しております。

● : 神楽坂は、観光地ではなくてコミュニティ中心とおっしゃいましたが、コミュニティだけでしたら、こんなに小さなところで盛りだくさんな事をやってもピンと来ないので、多分、東京であれば近くの区域以外からも行っているんじゃないかと思うのですが。その統計なんかは取ってらっしゃいますか。

☆ : 特に統計は取っておりません。私は店をやっているのですが、ここ数年ですがとにかく、マスコミの露出度が高いんですね。そういうことから、人出は確かに増えています。今までは半分ビジネス街ですけども、日曜日はほとんど人がいなかったんです。ここところは土曜・日曜の人手は中高年の方がリュックを背負って、数人のグループで歩かれるという姿を良く見られるようになっておりますので、そういった点では神楽坂自体、交通の便も良い所ですし、観光的に歩くと

いうのも立地条件としても良いのかなと思っています。感触としては増えています。何人ぐらいという統計は取っておりません。

● : 神楽坂は学生時代から親しみある街として利用させてもらっていますが、商店街に大型店とかスーパーの進出といった経緯などがもしあったら参考までに聞かせていただきたいと思うのですけど。

☆ : 神楽坂自体は個人企業的なものがずっと並んでいまして、バブルの時も地上げはほとんど起きなかったんです。一つ起きたのがアインズタワーというマンションが建った竜安寺の土地、そこが地上げにあってああいう状況になってしまっています。それが大きなビルになってしまって、それが神楽坂にとっては非常に残念なことと私達は思っています。大型店に関してということでは、1件1件が小さいものですからそれを取りまとめて大きくする余地がありません。無理すればできますが、しかし、実際は大変だということで、大きな大型店進出というのはありませんでした。ただ中小スーパー、地元のスーパー的なもの、500㎡ぐらいのスーパーは数件ありますが、それは本当の街の中のスーパーマーケットという感じで、大型店というものではないです。

(5分休憩)

#### 4 第2ステップへ（今後のテーマ検討）

◎ : 第三分科会の予定表によりますと、16回開くことになっています。今日は8回目ですからちょうど折り返し地点という形になりました。長いように感じましたが、結構早かったなあという印象もあります。それで、学習会、今日6回目だったわけですが今日で一応終わります。学習会というのは何遍もしつこく言って申し訳ありませんが、皆さん興味のあるテーマはきっとバラバラなのかもしれないですが、一応最低限の情報を共有しておきたいという我々の気持ちの表れで、半分学習会という貴重な時間なのですが、使わせていただきました。そして、これから何回か、本当のこの区民会議の最も一番重要な部分である、皆さんが常日頃考えている事を基本計画や都市計画マスタープランのまちづくり、これから新宿区が進めるまちづくりに提案していく、僕はこの第三分科会では提案という言葉を頻繁に今までに使ってきましたけれども、まさに、区民の方々が区役所やあるいは他の区民に、あるいは新宿区の企業に提案をする、そういう活動だと思っています。提案をするには、今申し上げたような情報を共有認識しておこうと、さらにこれから色々な提案に、肉付けをして「なるほどー、これじゃあやった方がいいなあ」と思っていただけ、骨はあっても肉は今のところないので肉付けをしていく、そういう作業を認識しています。次はまち歩きの発表が一回入りますけれども、そのあと、10, 11, 12, 13回目というのは、ここに日程が載っていますが、以前お配りしましたこのスケジュール表、11/1から12/22までちょうど残された今年4回で提案の内容をまとめるということ



になります。その後3,4回ありますが、実はこの皆さんが書いた提案の内容を一つの小冊子のような形でまとめるので、この後はちょっとまとめの作業という意味で実際にはこの4回の中で提案の内容を皆さんに書いていただくということで、これが一番重要な作業になります。そこで、今日は、11/1から4回に渡って皆さんのテーマ、皆さんがやりたいという、提案したいという内容のテーマにそって、ここからきちっとスタートできるように少し皆さんが考えているテーマや皆さんの今まで学習してきた、もう少しこの辺をやりたいとか、いや私は一つじゃなくて二つやりたいだとか、少し頭出しをしていて、次回、事務局でもう一回整理して、3回目、11/1にすんなり入れるような準備を今日したいと思っています。そこで、用意いたしました紙が今お配りいたしましたこの紙です。ちょっと説明をいたします。「第2ステップ調査・提案の活動に向けて」で、一番目にテーマ・キャッチフレーズとあります。もし、2つ・3つ提案があれば紙をまた配りますので、一枚にとにかく一つ書いて頂いた方があとで我々が整理しやすいので、一枚に一つという事で。キャッチフレーズと書いたのは提案ですから、人に伝えて「面白いな」と思ってもらわないとダメな訳です。第三分科会の中でも、例えばある一人の人が提案して、その提案がいいから私もやりますと仲間を増やさないと、何人かで提案したり調査したりできないので、何人かのグルーピングをしてみたいと思っていますわけです。ですから、分かり易く私がこんな提案をしたいという、分かり易く言えば、何回か前に僕はオープンカフェというのをご紹介したことがありますので、例えば新宿区の道路を使ってオープンカフェを実施しましょう、というようなキャッチフレーズを書いていただいたら、実際には調査したい、どこどこでこんなことをしたいだとか、あそこの道路はとても交通量が少ないのでできるのではないだろうかとか、何でオープンカフェをここでやりたいのかというのを説明していただけるとわかる。別に場所を書かなくても結構ですし、私が、実はレストランをやっているんで、建物の中だけではなくて自分ちの前の歩道でやったらいいと思っているからとかそんな理由でも何でも結構ですから、書いていただくといい。でも、今まで勉強会をやったけどなかなか1番や2番にあんまり具体的な提案は今思いつかないと、そういう人もいらっしゃると思います。それはそれで、全然問題ありませんので、そういう方は3番目の所に、今までの勉強会の見出しをもう一度書いていますので選んで○を。一回目の勉強会は景観だったと思います。二回目は住宅と住環境だったので、ちょっとこれは分けて書いてみました。三回目が防災・減災、四回目が都市基盤と交通バリアフリーということでしたが、これもちょっと分けておいた方がわかりやすいと思って分けました。五回目、これはみどりとエコロジー、これは分けるのも結構きついと思ったので、一つになっています。それから本日の歴史と文化ということで

す。それで、このテーマに必ずしも入らないというのものもあるかもしれないので、その場合はその他に書いていただいても結構です。それで、今から5分か長くても10分くらいの中に、とりあえず書いていただきたい。どんな傾向なのかを、ちょっと残された30、40分の中で、他の方はこんなことを提案しているとか、景観はこのグループで一番多いんだとか、おおよその傾向を知っていた方がいいと思いますので。3枚でも4枚でも何でもいいので。とにかく、皆さんがこれから提案活動をする時のグループをどんな風に設定したらいいかというのを我々はまだわからないので、今日の段階で具体的なものがある方は上に書いて頂いて、そうでない方は下の中から選んでいただく。どっちでも構いませんのでちょっと可能な範囲で考えていただいて。今書けないという方は全然書かなくても結構です。その書いていただいたものを5分から10分くらいで集めて、整理をして、それでもう一度問題の投げ掛けを、あるいは今の傾向を分析して投げ掛けるといようにしたいと思います。分かりにくかったですでしょうか。そんなに悩まなくてもいいので、1,2を書いていただいて3を書いていただいてもいいし、1,2は書きにくいので3番だけ書いていただいてもいいし、とりあえず、最後にお出しいただくときにお名前をきちっと書いてお出しください。8時5分までその時間に当てたいと思います。

<回収用紙よりキーワード、重要単語抜粋>

- ・ 遊びのスペース
- ・ 歩いて楽しい商店街
- ・ 楽しく歩けるまちづくり
- ・ 新宿駅周辺のモール化（住居/商業）
- ・ 道路、道の景観
- ・ ごみのないまち
- ・ 景観地区
- ・ オープンカフェ
- ・ 空き店舗、コミュニティレストラン
- ・ 防災
- ・ まちにあわせた消防車の開発
- ・ 災害危険度
- ・ 公園コミュニティ拠点
- ・ 緑化、みどりを増やす、守る
- ・ 「カエルぴよこぴよこ住めるかなあ」
- ・ 障害の部位にあわせたバリアフリー
- ・ ユニバーサルデザイン 歩きやすい使いやすい
- ・ 新宿区の伝統文化

・ 区内史跡チェック・案内板

・ 地区マネジメント

- ◎ : いま、ざっと見た範囲だと、学習会で分けたテーマが必ずしも提案のテーマにぴったり合っているということではなく、提案の方はもう少し横断的になる可能性があるのですが、僕はそれで良いと思っています。後でそれをどうバラバラにするかというのは、また別の作業としてあるので、もう少し横断的に考えた方が良いと思います。例えば、さっきの「散歩道」というような1つのキーワードで、住宅地だって商業地区だって、いろんな地区に必要な訳で、それをいくつかのカテゴリーに分けて整理するのは、事務局の方でやっていただくという形にしたいと思います。他に今、僕が紹介しなかった、あるいは書かなかったようなことで、これは落ちてるぞ、これは絶対入れた方がいいぞというもの、何かありますか？
- : 私は建築の設計が仕事ですから、そういう観点から、この落合の街を見て考えたことを。歩道と車道の段差というのは、落合だけではなく、どこでもそうですけれども、道路構造令で何でもそうなっている。東京都の第三建設事務所から何からこういう風にするのがいいのではないかと。それは目の不自由な人に対しても、身障者、車いすの人に対しても。なかなか彼らは道路構造令を盾にしてトンネルあるいはガードの天井の高さでも、本当は日米安保条約の地域協定に関わるということを含んでいながら、それは一言も言わずに4.7m必要だという風なことを言ったりしている。本当にヒューマンスケールを持ったまち、人間中心のまちというのはどうなのか、という視点から。もう一つ。建物は1m以上軒が出ると、出た分だけ建築面積に入ってしまう。しかし日本のように台風が来る、雨が激しい、あるいは強い太陽光線が照りつける、あるいは布団を干したい、洗濯物を干したい、あるいは風通しを求めたい、という時には軒の出はもっと自由にすべきだろうと。建築基準法というのも、防火・耐火でコンクリートがどんどん増えてきたという点で、この間の落合のまちというのはずいぶん堅い表情だな、京都のまちと全く違うなど。あるいは京都とは限らない、様々な他の小都市を見て歩くと決してそういうようなことではなくて、人に優しいというのは、そういうことだと。そういう点で、いまの建築基準法の「燃えないように」「壊れないように」というのも、それは大切だけれども、それはそのまま固い材料だと言ってしまふところが極めて短絡的な発想だという観点から、また別の分野でもそういう見方ができるものがありはしないか、ということで気が付いたことを申し上げました。
- ◎ : 後に言われたこと、全くそうだなと思うのですが、例えば、新宿区で具体的に提案するとしたら、どうなりますかね？一般論ではなくて、新宿区の基本計画の中に、例えば、ここの街を守るには今の建築基準法を守るだけでは街並みは守れない。あるいは、区民の生活が守れないということがあれば、そこに即してそういう提案をしたら良いなと聞いて思ったのですが。新宿だと具体的に。

- : 超高層ですね。まずみんなが思っていることは。
- ◎ : それは、「守る」ではないですね。
- : 超高層によって、景観がすっかり変わってしまった。外から見ればそうだけれども、あの北側に住んでいる人達の立場で考えれば、日照権が、これだけ東京の人間が多いのに、一日中陽が当たるなんてことは考えられない、贅沢だと言うような考え方が一般的になっているようですよね。でも憲法第25条の第2項を考えてください。全て国民は健康にして文化的な…云々…国は全ての部面について、社会福祉、社会保障および公衆衛生の向上と増進に努めなければならないと。それを、建築基準法ではないけれども、日照の規定の中で、朝何時から何時までの間にということで日照が限られてしまう。ですから北新宿でもどこでも、いろいろなところで建物を下げろ、というトラブルが起こるのは当然のことで、なおかつ、そういった建物が建ってしまって、その30年後の建て替えの時に既得権を認めると区長が言ってしまった。生存権を奪ったうえで、財産権を守ろうと言及していることは、本当に破廉恥な物の考え方をすることになっていると。これは、今のカネ、カネ、カネというホリエモンのああいう考え方が…。
- ◎ : 分かりました。
- : そういう今日的な傾向が、本当にそれでいいのかと。本当はこうあらねばならぬのではないかというのが生活の形として考えられるのかなと。
- ◎ : 新宿区の基本計画やまちづくりの方針を考えるうえで、超高層について触れないというのはないと思いますので、超高層ビルの良い点もあるだろうし、今言われたような問題もかなり多いと思うので、超高層について1グループでやりましょう。以前もお話ししましたね。超高層の問題点を研究書でもいろいろ挙げているわけで、そういうことも、きちっと調査・研究して提案しようというようなグループを。今のご提案、とても良いと思いますので、1つ加えました。ありがとうございました。
- : 今の話に関連して、神楽坂のまちづくりは、道路なんかとても狭いでしょう。だから建築基準法とかいろいろな絡みで、保存するという中では、あれは違反しているから建て直すときに4m道路にしろとか、そういうような、今の法規と地域のまちづくりの関連、それをもうちょっと考える必要がありますね。
- ◎ : 建築基準法の軒の話をしてお尋ねした時は、そういう答えを期待して言ったんです。ですから、神楽坂と言ってくださるのかなって。そうじゃなかったの。僕も全く同感で、神楽坂はそういう問題を抱えていますよね。ですから、そういうことに踏み込まなかったら、「区民からの提案」とならないんですから。生活だとか街並みを守るソフトな仕掛けだとか、ハードな意味での仕掛けも若干あれば2項道路でもいいじゃないか、4m いらぬのではないかなという提案をするのが。全部しろという意味ではないのですが、きちっとした神楽坂のような組織があって、それだけやっているところ、それが魅力になって都市観光が成り立っているところを潰すな

んで、そんな法律があってはいけない訳ですから、そういう話は、伝統・文化のところで神楽坂なんかを事例に、是非今のご提案を引き受けていただけたら有り難いと思います。他に何かアイデアありますか？

- : アイディアというよりは、私はそこに書いていただいた「防災」ということについて、改めて1つ強調したいと思います。一般的には、行政の方の指導も含めて、関東大震災クラスあるいはそれ以上の地震があった場合にどうか、いろいろな資料なり本なりを作って指導はしているのですが、やはり実際に被害があった場合の実態は、なかなか難しい問題があると思うのです。1つは、この前9月4日に集中豪雨が夜ありまして、私の家の近くの妙正寺川の水が溢れまして、近隣の家が3、40戸床上・床下浸水になったのですが、そういった場合の対応が、行政も地域の住民も、私に言わせれば「なってない」のです。ですから、どういう災害が起こるか分かりませんが、これから特に地球温暖化現象なんてありますから、妙正寺川と同じように神田川なんか水と緑、桜がきれい、そういう良い時期の時は良いですが、台風だとか災害があったときに、桜がきれいだななんて言っていられないですよ。やっぱり人々の生活に実際に携わる問題ですから、そういう部分も改めて、本当の防災・災害というものに対して、すべて洗い直してどういう風に対応したら良いかということを含めた研究をして、対応策を考えていかなければいけないと思うのです。これは、役所に頼ってはいけません。我々住民も、官民一体となって、初期対応なり、どういうことを実際にやったらいいのかを本気で詰めていかないと、役所の危機管理課もいろいろやられておられるようではありますけれども、私に言わせれば机上の空論で実態に合っていない面が多々あると思うんです。その辺を本気でやっに行かないと、今後と同じような火災に対してもそうでしょうけれども、火事が起きたら消防署に任せておいたらいいって訳にいきませんから。そういうことも含めて、本気で取り組もうってことが大事だと思うんです。

- ◎ : ありがとうございます。今の話しもとても重要なので、多分、防災・減災というところで書くことと、やはり僕の期待は、地区マネジメントの仕組みで、これは個別のテーマは言っていないですが、非常に地区においては総合的な、例えば遊歩道を作るということと、いざ溢れた時どうするってことは表裏一体のことなので、そういう他で個別にあがったことは、こういうところできちっとまとめるという訳ではないですが、縦と横みたいな関係でここでも書くっていうことをお願いして、そういう横のネットワークを作って、ここで書いたらいいのではないかと今思いました。もうひとつかたどうぞ。

- : 高層化が抜けていたと同じような意味合いがあるのだと思うのですが、国際化の観点が抜けているのではないかと。どんどん人口が増えれば、外国人が増えるという状況になっている時に、これからまちづくりを継続しようって時に、その対応の視点が1つも無いというのは、これは最大な欠点じゃないかと思うのです。私

の提案が全然無い。私の提案は具体的過ぎたのかもしれませんが。

- ◎ : 職安通りの。
- : そうです。だから、今のような書き方だったら、「国際化に対応するまちづくり」ってことでしょう。以上です。
- ◎ : ちょっと待ってください。職安通りをこうするってことは、別に良いのですが、国際化ってことを、どういう切り口で言うかだと思うのです。どこにでも入れなければいけない重要な視点なのかもしれないし、やっぱり1つきちっと国際化というグループを作るべきか。分かりました。1つにしておきましょう。はいどうぞ。
- : 防災のところなのですが、消防車を街に合わせるのではなく、消防署にブルドーザーを配備する。
- ◎ : 具体的な話はまた、こういうグルーピングでどうかというのが今日の議論なので。今このようにやっても、きっと時間切れとなりますので、それについては更に紙に書いて出していただければ、もう一度この整理が良いかどうかは僕らがチェックしますから。全部の中身を読んで。ただ雰囲気はちょっとみなさんにも知っておいていただきたいくて、このようにやっています。どうぞ。
- : 西新宿でもありましたが、四谷でしたか、学校がどんどん減ってきて、学校をどういう風に有効活用するかという中に、PFI を使った開発をしようというのを現実にもいろいろとやっています。新宿でもやりうると。PFI は1つだけの手法ですが、その種を言ったらきりが無いけれど、典型的で分かりやすいので、新宿でこれを勉強したら良いのではないかと。取り上げていただきたい。
- ◎ : 一応入れておきます。勉強会をどういうカテゴリーでやろうかと言ったときに、実は僕も出したのです。学校の統廃合だとか、公共施設も時代に合わせて変わっていかなければいけない。そういうことに関するルールのようなものを第3分科会で提案しても良いのではないかと。ただ、なかなか勉強会ではしにくい。具体的に「ここは」「ここは」となってしまうので、外したというところもあるのです。ただ、こういう都市計画においては、とても重要なので一応書いておきます。ただ、どの程度の人が興味を持つかは未知数なのですが、一応書いておきます。はいどうぞ。手を挙げる勇気のない人は紙に書いて置いていただければ、同じように扱いますので。書いてください。
- : 今、いろいろと申し上げましたけれども、神田川には感心があります。東京都の第三建設事務所の河川課。それから土木の方の道路ですね。ああいうところで、図面をくださいと言っても彼らは出しません。都庁へ行って東京近辺の大雨の後がブルーに塗られた、畳1枚ほどの大きな地図があります。10何枚ありました。売ってくれと言ったら、売りものじゃないんだと。都庁の土木の壁に貼っていてもしょうがない。本当はそういうところの人達がこれを見てあるいは区であれ、市であれ、どうしようかと総合的に見るときに非常に重要な資料になる訳です。そういう調査は

都民の税金でやっていて…

- ◎ : このグルーピングに関係するような…
- : それで、そういう図面を、ここで区として、さまざまな地域でさまざまな問題が出てくる訳ですから、基礎資料の元になるものですから一部ずつ用意すると。神田川の断面ですとか、都庁の土木にも言ったのですが、神田川に水門を作って…
- ◎ : 分かりました。これから4回の活動、提案と調査とあえて書きましたので、提案をするには基礎的データが必須です。グルーピングができて、その中できちっとした提案をするためにはこんな材料がいると言っただけであれば、出来る限り区の方で用意していただくことになっておりますので、その時に「ぜひこの資料を」と言っただけであればと思います。
- : 提案に真実味が出てきます。
- ◎ : はい、そう思います。上っ面な提案はせっかくこれだけ勉強しているのだから、したくありませんので。きちっとしたデータに基づいて、「なるほど」という提案を書くべきだと僕もずっと思っています。他にありませんか。

時間もそろそろなので、今議論をしている中でまた思いついたことがありましたら新しい紙をどんどん配りますので出してください。2つ3つ出していただいて構いません。グルーピングしてみて、でも自分の身体は1つしかないの、どのグループに入るか。あるいは、どうしても2つやりたいと言ったら、2倍忙しくなる訳ですが、2つ入っていただいてもやぶさかではありません。3つは、ちょっと難しいかもしれません。その紙をお帰りにするまでに書いていただくということで、第2ステップまでのグルーピングをどのようにするかというプロセスは、今ここで終了にしたいと思います。よろしいでしょうか。また次回に向けてこれを整理したものをお出しして、その次に本当にグルーピングをします。ありがとうございました。では最後、まち歩きの方のお話をさせていただきます。

#### 5 まち歩きについて

- ▲ : まち歩きに関する事項
    - ・ 10月8日 戸塚地区
    - ・ 10月15日 若松地区
    - ・ 10月20日 まちづくり発表会
- 各班10分程度で発表、全体で1時間程度  
スライド20枚を使用  
→各班で役割分担、発表内容の打ち合わせ

閉 会